

## 平成30年度 学校評価アンケート分析(保護者用)

H31.1.24

※数字は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定的な割合の合計。( )内は昨年と比較した割合の差。80%以上を高評価、70%未満を低評価と位置づけている。同%の場合は、「そう思う」の割合の高い順に並べている。

高評価順(生徒)	高評価順(保護者)
1. ⑳施設・設備の安全管理・・・97%(+1%)	1. ⑳施設・設備の安全管理・・・99%(-1%)
2. ⑲環境の整理・美化・・・95%(+1%)	2. ⑲環境の整理・美化・・・99%(-1%)
3. ⑱学校行事の工夫・参加・・・93%(+6%)	3. ⑬友だちと仲良く・・・98%(+0%)
4. ②充実した学校生活・・・93%(+10%)	4. ③教職員の連携・・・97%(-1%)
5. ⑬友だちと仲良く・・・92%(+5%)	5. ⑱学校行事の工夫・・・96%(-2%)
6. ⑮規範意識・・・	6. ㉒学校行事への参加・・・96%(-2%)
・・・92%(+2%)	7. ⑨深プロのテーマ設定・指導・・・95%(-3%)
7. ④わかりやすい授業・・・92%(+4%)	8. ②充実した学校生活・・・94%(+0%)
8. ⑦深プロ目標の理解・・・90%(+2%)	9. ⑮規範意識・・・94%(-3%)
9. ㉒文書伝達・・・89%(+16%)	10. ⑩心の教育の充実・・・94%(-1%)
10. ㉑学校からの情報発信・・・89%(+3%)	11. ⑭生徒理解・・・91%(-4%)
11. ⑯いじめや問題への対応・・・88%(+5%)	12. ⑫一人一人の子どもの尊重・・・90%(-6%)
12. ⑩思いやり・感謝の心・・・88%(+11%)	13. ⑯いじめや問題への対応・・・90%(-5%)
13. ③教職員の連携・・・87%(-1%)	14. ⑦深プロ方針の理解・・・90%(-5%)
14. ⑧深プロへの意欲・・・87%(+3%)	15. ㉓教師と保護者の連携・・・90%(-3%)
15. ⑫一人一人の子どもの尊重・・・82%(-3%)	16. ①教育目標の理解・・・89%(-7%)
16. ⑪あいさつの励行・・・82%(+6%)	17. ⑧深プロへの意欲・・・89%(-3%)
17. ⑥意欲的な学習態度・・・82%(+0%)	18. ⑪あいさつの励行・・・88%(+2%)
18. ⑰健康づくり・・・81%(+13%)	19. ㉑学校からの情報発信・・・87%(-9%)
19. ⑨深プロの魅力・・・81%(+1%)	20. ㉕夢・希望・・・86%(-8%)
20. ⑭生徒理解・・・81%(+0%)	21. ⑥意欲的な学習態度・・・85%(-5%)
22. ⑤知識・技能の活用・・・76%(+1%)	22. ⑰健康づくり・・・84%(-12%)
	23. ⑤知識・技能の活用・・・73%(-12%)
	24. ㉔家庭学習・・・67%(-13%)
	25. ④授業内容の理解・・・68%(-8%)

### 1. 全体的な傾向

#### ◎生徒の評価

昨年80%以上の項目は、16項目であったが、本年度は20項目と増え、昨年より高い評価が得られている。特に「㉒文書伝達」が昨年度比16%、「⑰健康づくり」13%、「⑩思いやり・感謝の心」11%、「②充実した学校生活」10%と増加しているのが目立っている。逆に、「㉔家庭学習」が昨年度比19%減少しているが、一昨年までは毎年50%台で推移している評価の低い項目ではある。

「㉓自尊感情」は例年最も評価の低い項目の一つであるが、本年度も52%と相変わらず低評価に終わってしまった。上学年になるほど「自分のことが好きではない」割合が増えている。「⑰健康づくり」は毎年評価を落とし続けていたが、本年度は、81%と評価が上がっている。

## ◎保護者の評価

本年度は100%の項目はなかったが、「⑳施設・設備の安全管理」、「⑲環境の整理・美化」などの学校環境面は相変わらず高い評価を得ている。しかし、昨年90%以上の高い評価を得た項目が21項目あったが、本年度は15項目と6項目も減っている。特に、「⑰健康づくり」が昨年度比12%減と目立っている。その他、「④授業内容の理解」は2年連続して最も低い評価になっている。また、昨年少し評価が上がった「㉔家庭学習」「⑤知識・技能の活用」は13%、12%と昨年度比で減少している。

### 高評価順（教職員）

1. ⑯いじめや問題への対応・・・100%(+0%)
2. ⑲環境の整理・美化・・・100%(+6%)
3. ⑭生徒理解・・・100%(+0%)
4. ⑱学校行事の工夫・・・96%(-4%)
5. ㉔施設・設備の安全管理・・・96%(-1%)
6. ④授業づくり・・・96%(-1%)
7. ⑧深プロへの意欲・・・95%(+2%)
8. ⑬友だちと仲良く・・・92%(+1%)
9. ⑥知識・技能の活用・・・92%(+3%)
10. ⑦深プロ方針の理解・・・91%(+5%)
11. ㉓教師と保護者の連携・・・91%(+6%)
12. ③教職員の連携・・・88%(-6%)
13. ⑫一人一人の子どもの尊重・・・88%(-1%)
14. ①教育目標の理解・・・86%(-8%)
15. ㉒学校行事への参加・・・86%(-6%)
16. ㉔家庭学習・・・83%(-6%)
17. ⑨深プロのテーマ設定・指導・・・81%(+8%)
18. ⑮規範意識・・・80%(-12%)
  
19. ⑤意欲的な学習態度・・・79%(-10%)
20. ②充実した学校生活・・・79%(-15%)
21. ㉕夢・希望・・・78%(+8%)
22. ㉑学校からの情報発信・・・77%(-20%)
23. ⑩心の教育の充実・・・70%(-16%)
24. ⑰健康づくり・・・48%(-49%)
25. ⑪あいさつの励行・・・44%(-6%)

## ◎教職員の評価

本年度は、100%の項目が「⑯いじめや問題への対応」「⑲環境の整理・美化」「⑭生徒理解」と3項目あった。反面大きく評価が下がった項目もある。「⑰健康づくり」昨年度比49%、「㉑学校からの情報発信」20%、「⑩心の教育の充実」16%、「②充実した学校生活」15%、「⑮規範意識」12%、「⑤意欲的な学習態度」10%と昨年に比べて10%以上減少している項目が今年はいくつか目立っている。また、「⑪あいさつの励行」は、ここ数年最下位の低評価が続いている。評価が上がった項目としては、「⑨深プロのテーマ設定・指導」昨年度比8%、「㉕夢・希望」8%が目立つ程度である。生徒や保護者に比べて、やや厳しい評価と感じる。

### 2. 教科指導について

④「分かる授業」については、92%の生徒がわかりやすいと評価（そう思う36%）し、先生方も96%が丁寧な授業づくりに努めていると高く評価している。一方、保護者の評価は、68%が授業内容を理解できていると答えている（そう思う16%、どちらかといえばそう思う52%）が、残り32%の内27%は「どちらかといえばそう思わない」、5%は「そう思わない」と答えている。この項目の保護者の割合は、昨年より8%も評価が下がっている。教科内容の見直しを含めた授業の工夫改善や授業研究への取組が今後の課題ではないかと思う。

### 3. 深プロについて

⑦⑧⑨の深プロの項目については、生徒・保護者・教職員ともに、ほとんど80%以上の高い評価を得ている。特に保護者は、各項目について「そう思う」の割合が約40%と評価は高い。逆に教職員は、「そう思う」の割合が約20%程度となっている。生徒の「そう思う」の割合は30%～45%程度である。深プロに対する保護者と教職員の評価の差が課題として残る。

#### 【成果】

(1) 全体的に生徒、保護者、教職員の評価が高い項目は、「学校環境」「生徒指導」「人権教育」「深プロ」などである。特に生徒の評価項目に着目してみると、大きく増加しているのが、「㉒文書伝達」である。情報の公開・発信には欠かせない項目の一つである。今後も評価を高めて学校に対する協力や理解を得ていきたい。

(2) 生徒・保護者・教職員ともに「⑫一人ひとりの子どもの尊重⑭生徒理解⑯いじめや問題への対応」は高い評価で、学校や先生方に対する生徒・保護者の一定の信頼感はあると言える。しかし、学年別に見てみると高学年では⑫⑭の評価はそれほど高くない。今後も今まで以上に一人ひとりの生徒への丁寧で細かい対応をお願いしたい。さらに報告・連絡・相談を密にし、職員間の情報の共有化を図り、学校の危機管理に対応していかなければならない。

### 【課題】

#### 1. 教職員と生徒・保護者の評価の差が大きい項目について

(1) ⑪「挨拶の励行」生徒 82%・保護者 88%>教職員 44%

教職員の評価は 44%と毎年最下位の評価である。生徒は 82%、保護者は 88%と教職員と比べるとかなり高い評価である。学校内でも明るく大きな声で挨拶している生徒はとてまないように感じる。生徒会など挨拶運動に取り組んでいるが、中々全校生徒への広がりが今一步のように感じる。

(2) 「⑳家庭学習」教職員 83%>生徒 58%・保護者 67%

生徒全体の評価は 58%。1年生が 72%、2年生が 45%、3年生が 53%である。保護者の評価は 67%。教職員は 83%。教職員と保護者や生徒との差が大きい項目の一つである。先生たちが思っている以上に生徒たちは家庭学習ができていないと答えている。家庭学習ができていない原因をもっと深く掘り下げて考える必要があるのではないかと思う。

(3) 「㉑健康づくり（運動をしたり、好き嫌いをなく食べたりといった、健康な体づくりに取り組んでいるか）」生徒 81%・保護者 84%>教職員 48%

生徒や保護者の評価は、80%台でまずまずの評価であるが、教職員の評価は極端に低く、昨年度比 49%減となっている。これは、運動と食育が健康な身体づくりを支えるという項目であるが、今後の課題として、学校全体で運動（クラスマッチ、持久走大会、競歩会など）と食育（食育の意義、食事のマナー）を教科や道徳とどう連携しながら取り組んでいくか考えて行く必要がある。

#### 2. 本年度も最も評価が低かった項目について

「㉒自尊感情」は生徒全体では 52%の評価である。1年生が 62%、2年生が 49%、3年生が 43%となっている。その中で、自分のことを好きだと「そう思う」割合は 15%、「そう思わない」割合が 12%である。発達段階で中学生になると自分のことが好きではない割合が高くなる傾向はあるが、学校生活や教科・道徳、深プロの時間で、「認め、褒め、励まし」「承認」できるような場面を設けていくことが、子どもたちの自尊感情や自己肯定感を少しでも高める場になるのではないかと思う。

#### 3. 項目内容の変更について

「①教育目標の理解」に対する生徒の評価が低い。生徒の項目は「あなたは、『生徒の誓い』（英知・気品・剛気）を意識して行動できていますか。」に対して、教職員や保護者は「学校は家庭に学校の教育方針や教育目標を分かりやすく示していると思いますか。」となっている。生徒の項目はかなり程度が高い質問項目なので、教職員や保護者の項目に合わせた方がよい気がする。